

第1章 アジアの環境市場

日本と比較して、アジア諸国の経済成長は高く、経済規模は拡大している。環境法の整備、執行の強化なども徐々に進み、環境市場の規模は拡大してきていると考えられる。

環境省[2004]は、中国、インドネシア、タイ、ベトナムを対象国として、水（浄水、下水、排水処理）、廃棄物（一般廃棄物収集処理費用、新設焼却施設整備、新設最終処分場整備）、新エネルギー（バイオマス、地熱、太陽、風力、潮汐）、大気（集塵装置、脱硫装置、廃ガス処理、関連機器）、環境サービス関連（ISO14001 認証取得、環境報告書関連サービス）、クリーン開発メカニズム（CDM）の市場規模を推計している。

これら4カ国の環境市場規模は、2000年代前半で210-250億USドルと推計されている。中国が全体の約半分を占め、インドが約4分の1を占めている。2020年には、1340-1640億ドルと大きく拡大するとみられている。うち、中国が約3分の2を占めると推計されている。同じ対象で考えた場合、2000年には日本の24-29%、2020年には61-75%に達すると推計されていた。

2008年5月に、経済産業省、環境省がまとめた「東アジア経済・環境共同体」構想では、アジアの環境ビジネス市場の規模を、現状は64兆円、各種の政策により、2030年に300兆円へと拡大することを目指すとしている。

しかし、これらの推計は、環境ビジネスの内容を限定的に考えていると思われる。たとえば、廃棄物関係では、リサイクルに関する施設や再生資源の取引といった市場は考慮されてない。

イギリスの政府機関からの委託で、Innovative Solutions社が行った低炭素・環境関連の産品およびサービスの市場規模の調査では、リサイクルや代替燃料などを含めた推計を行っている。市場規模は、全世界で、3兆458.3億ポンド（1ポンド=132.03円換算で402兆円）、アジア地域で1兆1485.8億ポンド（152兆円）と推計している。アジアの世界でのシェアは、37.71%に達しているという。アジアの中では、極東が、7032.2億ポンド、南アジアが2310.3億ポンド、東南アジアが1320.4億ポンドと推計されている。アジア各国の市場規模は表1の通りである。対象分野がより広いことから、日本の環境省や経済産業省の推計と比べると、市場規模がより大きいことが示されている。

分野別の環境市場規模は、世界全体で、代替燃料1940.5億ポンド、建設技術1352.6億ポンド、自動車用代替燃料1311.2億ポンド、水供給・排水処理810.1億ポンド、リサイクル・熱回収672.4億ポンド、カーボン・ファイナンス（排出権取引など、温室効果ガスの排出削減に焦点をあてた金融）564.1億ポンド、廃棄物処理494.6億ポンドなどとなっている。

今後アジア各国の環境分野の取り組みは、予想を上回るスピードで展開されているように思われる。たとえば、中国は、2008年11月に経済危機への対応として、2年間に4兆元（約52

兆円) の投資により内需拡大を図ると発表した。植林などの生態環境保護対策や汚水やゴミ対

表 1 アジアにおける低炭素・環境関連の産品およびサービス市場

世界の順位(08/09)	国名	2007/08 (億ポンド)	2008/09 (億ポンド)	円換算(08/09) (億円)	シェア (%)
2	中国	4,112.3	4,189.3	553,113.3	13.34
3	日本	1,912.6	1,973.4	260,548.0	6.28
4	インド	1,908.1	1,941.5	154,079.0	4.19
14	韓国	497.6	524.2	69,210.1	1.67
15	インドネシア	438.6	460.1	60,747.0	1.46
16	台湾	350.5	368.2	48,613.4	1.17
19	イラン	270.6	284.2	37,522.9	0.90
20	タイ	270.7	282.8	37,338.1	0.90
25	バングラデシュ	149.3	209.3	27,633.9	0.67
27	フィリピン	218.4	209.3	27,633.9	0.67
28	パキスタン	193.6	203.6	26,881.3	0.65
29	サウジアラビア	161.6	172.7	22,801.6	0.55
33	ベトナム	148.4	155.3	20,504.3	0.49
36	香港	130.6	133.7	17,652.4	0.43
39	マレーシア	117.9	121.7	16,068.1	0.39
52	イスラエル	69.4	69.6	9,189.3	0.22
53	シンガポール		67.0	8,846.0	0.21

出所) Innovas Solution Ltd. [2009]および Innovas Solution Ltd.[2010]のデータ。

<http://www.bis.gov.uk/assets/biscore/business-sectors/docs/l/10-1101-low-carbon-and-environmental-industry-analysis-2008-09-underlying-data.elx>

策などの水汚染防止、省エネ、汚染物質排出削減など、環境対策も盛り込まれている。

企業の環境対策については、各国の法規制の整備や法規制の執行の強化の影響を大きく受ける。また、所得水準の向上も、環境への関心を高める傾向があると考えられる。アジア諸国の経済規模、環境関係の指標を概観すると以下のような状況となっている。

日本でも、新たな環境規制の導入により、市場の拡大が期待されるが、人口が減少に転じ、経済成長率もアジア地域と比較すると見劣りがしている。アジア地域の環境分野の成長を日本の環境産業の成長に取り込めるかが重要となる。海外の市場への対応は、日本の技術力を高め

る可能性も指摘されている。2010 年版中小企業白書（中小企業庁[2010]）は、国内での製造業の投資が鈍っており、工場の公害防止投資なども大きな成長は期待できないとしている。また、2000 年から輸出を行ってきた企業と輸出を行っていない企業、2000 年度から直接投資を行ってきた企業と行っていない企業を比較し、どちらの場合も行っている企業の方が、労働生産の伸びが高いことを示している。

表 2 アジア諸国の所得水準とガバナンス指標

国名・地域名	所得水準（購買力 平価、US ドル）		ガバナンス指数				ESI ^b	EPI ^c
			政府の有効性		汚職の制御			
	1995 年	2009 年	1996	2009	1996	2009	1999	2010
シンガポール	25,780	49,780	2.011	2.194	2.174	2.261	54	69.6
香港	22,890	44,340 ^a	1.123	1.757	1.409	1.845		
日本	22,610	33,470	1.135	1.256	0.737	1.35	66	72.5
韓国	12,750	27,310	0.814	1.112	0.477	0.522	57	57.0
マレーシア	7,020	13,710	0.878	0.989	0.548	0.021	55	65.0
タイ	4,450	7,640	0.432	0.152	−0.28	−0.23	52	62.2
中国	1,460	6,890	0.044	0.116	−0.2	−0.53	54	49.0
フィリピン	1,950	4,060	0.038	−0.14	−0.23	−0.71	47	65.7
インドネシア	2,200	3,720	0.197	−0.21	−0.34	−0.71	54	44.6
ベトナム	960	2,790	−0.22	−0.26	−0.3	−0.52	43	59.0
カンボジア	630	1,820	−1.28	−0.74	−1.07	−1.18		41.7

注 a) 2008 年の統計

b) ESI : Environmental Sustainability Index 環境持続性指数

c) EPI : Environmental Performance Index 環境パフォーマンス指数

出所) 下記のサイトのデータより作成。

<http://data.worldbank.org/indicator/NY.GNP.PCAP.PP.CD>

<http://info.worldbank.org/governance/wgi/index.asp>

<http://epi.yale.edu/Countries>

http://sedac.ciesin.columbia.edu/es/esi/ESI_00.pdf

市場規模の観点からも、また、日本企業の生産性の向上の観点からも、企業の発展戦略にアジア市場を取り込んで行く必要があると言える。

